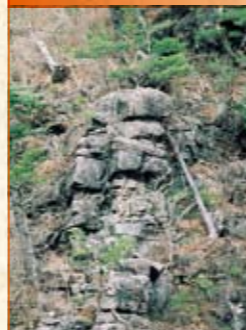


# 「い〜べした高瀬川溪谷」



## 1 松茸石



大木惇夫の詩碑から川に下りるときれいな砂場に出て、荘厳な岩場と美しい清流を目の当たりにできます。やや下流の対岸岩場の上側に少し形の変った松茸石が見えます。歌として宴席でも唄われることのあるこの石には色んなご利益があるかも。でもキノコが採れるんじゃないよ。

## 2 大木惇夫詩碑



溪谷沿いに県道を進むと間もなく詩碑があります。昭和20年6月初めに詠まれた大木惇夫の「高瀬川哀吟」が刻まれています。戦争は、惇夫の目に映る美しい大瀬の自然までも悲しみの映像に変えてしまったのでしょうか。

## 3 佐々木俊一詩碑



浪江が生んだ作曲家佐々木俊一の代表作「高原の駅よさようなら」の譜と詩が刻まれた碑は昭和38年地元有志による建立です。まだまだ懐かしく口ずさめる方も多いのでは？

## 4 歯形の栗の木



日本中、どこにもない、でも大瀬にある栗の木。歯形のついた栗の実がいっぱいなるよ。この苗木は、他の土地に植えても歯形のついた栗の実がならない。10歳になるアキという女の子の涙を誘う不思議な本当の物語があるんです。歌にもなって小学校の教材にも載っているんだよ。

## 5 大柿ダム



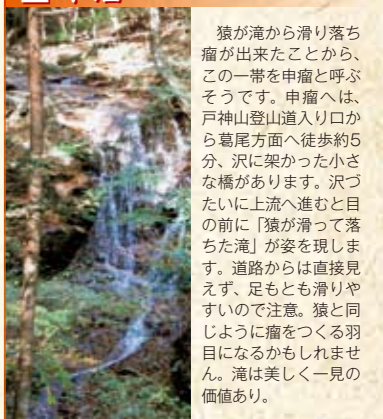
昭和49年度に着工し、昭和63年に完成したダム。請戸川上流における安定的な農業用水の確保が主な目的ですが、ダム湖面に映えわたる紅葉の風景は情緒満点。季節によって異なる請戸川の魅力にふれることができます。見学の際は要予約。(TEL.0240-34-5614)

## 6 宮の松



一の宮駐車場に車を止めるとまず目に飛び込んでくるのが、大きな岩の天辺に一本の松の木、それが宮の松です。もちろん上まで登ることも可能。上から溪流を見下ろしている。溪流の中に覗い込まれそう。対岸の岩肌には中国の水墨画のように見え、絶景です。

## 7 申窟



狼が滝から滑り落ち窟が出来たことから、この一帯を申窟と呼ぶそうです。申窟へは、戸神山登山道入り口から葛尾方面へ徒歩約5分、沢に架かった小さな橋があります。沢つたいに上流へ進むと目の前に「狼が滑って落ちた滝」が姿を現します。道路からは直接見えず、足もとも滑りやすいので注意。狼と同じように窟をつくる羽目になるかもしれません。滝は美しく一見の価値あり。

## 16 手倉山トレッキングガイド

静かな登山を楽しみながら巨大木を眺め、語り、四季を楽しめる山。春にはアカヤツツジの花でピンク色に染まります。山頂からは蔵王、安達太良山、太平洋が望めます。



## 15 ザワミキ淵



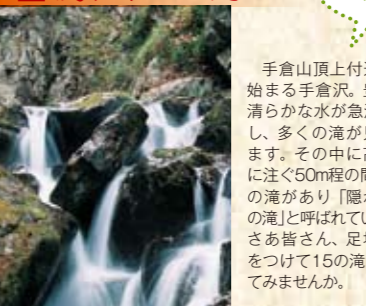
知る人ぞ知る高瀬川溪谷(葛尾川)の絶景スポット。周辺の川岸は地元集落で親水公園として、川面がよく見えるように刈払いなどの管理をしています。

## 14 かっぱの遊び場



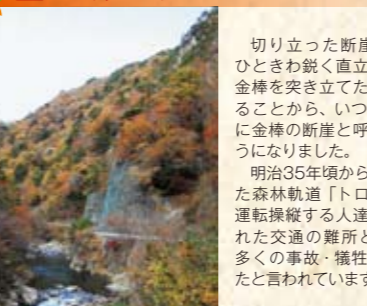
高瀬川の辺りで子供がかっぱと遊んでいると、毎日金一分ずつ出てくるという壺をかっぱから手渡され、「このことは誰にも言わない。言えはお前の命はなくなるぞ」と言って川の中へ消えていった。不思議にもこの壺より毎日金一分が湧いてくるので子供はほしい物を買集めていたが、親に見つかり責められてつい白状してしまう。突然子供は死んでしまったよ。河原の上に吊り橋があり、いっくら揺れながら眺める景色もいいものです。

## 13 天狗の庭(寝床)



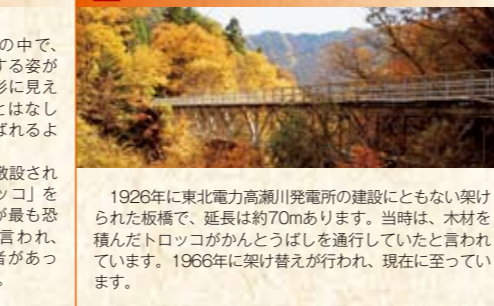
手倉山登山口のすぐ下に、白い岩が寄り添っています。間を縫って清流が流れ、ひととき大きな白岩石がそびえて天狗の鼻と見まごうときです。清流に天狗が隠れんぼする庭です。

## 11 隠れ十五の滝



手倉山頂上付近より始まる手倉沢。豊富で清らかな水が急流を成し、多くの滝が見られます。その中に高瀬川に注ぐ50m程の間に15の滝があり「隠れ十五の滝」と呼ばれています。さあ皆さん、足場に気をつけて15の滝を探してみませんか。

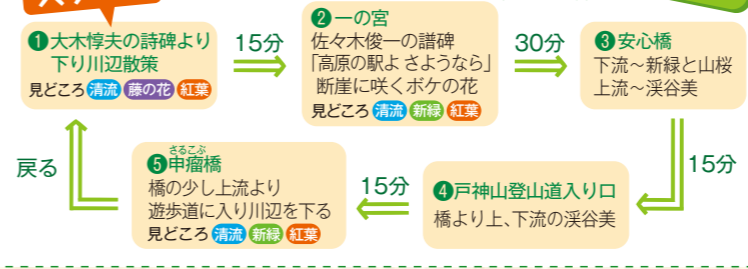
## 9 かんとうばし



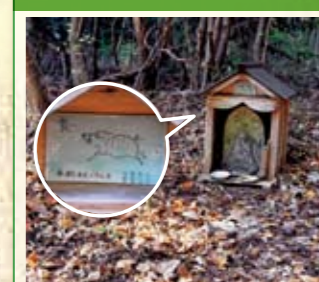
切り立った断崖の中で、ひととき鋭く直立する姿が金棒を突き立てた形に見えることから、いつとはなしに金棒の断崖と呼ばれるようになりました。明治35年頃から敷設された森林軌道「トロッコ」を運転操縦する人達が最も恐れた交通の難所と言われ、多くの事故・犠牲者があったと言われていました。1926年に東北電力高瀬川発電所の建設にもない架けられた板橋で、延長は約70mあります。当時は、木材を積んだトロッコがかんとうばしを通行していたと言われています。1966年に架け替えが行われ、現在に至っています。

**二つ岩の伝説**  
昔、戦に敗れ身に数カ所の傷を負った四郎と太郎の若い兄弟が、励まし合いつつようやくこの地まで逃れて来たが、出血が激しく身は衰弱しきっていた。戦争とは残酷である。そんな時、運悪く追って来た敵兵に見つかってしまった。重傷の身では大勢の追っ手にあらがう術もなく、今はこれまでに覚悟した二人は、さらばと互いに刺し違えて若き命を花の如くに絶った。追ってきた敵も、見ればまだ紅顔の美少年、戦の習いとはいえ、その若武者らしい最後に涙して兄弟を葬るその上に墓印として小石を立てて冥福を祈った。その墓印の小石が根つき、長い年月の間に育ち、天を突くばかりの大岩になったのだそう。

## 高瀬川散策おすすめルート



## 8 戸神山トレッキングガイド



山頂からは太平洋が一望できます。高さだけではない山の楽しみを味わいたい人にオススメ。登山道には全国でも珍しい十二支が祀られ、元日登山に訪れる方も年々増えています。

